

国際交流委員会発行

第3号に引き続き姉妹校Mt.EdgecumbeHSへの短期留学記を掲載します

第4号は、若佐陸王君の短期留学記です。

姉妹校エジカム高校留学を経て 若佐陸王

僕は、アラスカに姉妹校留学に行くことが決まったとき、この留学で日本とアラスカの生活の違いや、そこに住んでいる人達の考え方やコミュニケーションの方法はどのようなものかを学ぶと共に言語を学ぼうと思いました。

コミュニケーション能力の高さに感心！

まず、僕が驚いたのは僕とアラスカの人との体格の違いです。アラスカに到着して出迎えてくれた先生や生徒のみなさんはとても体格が良く、握手をしたときに男性も女性もみんなおおきな手をしていて、身長も僕と同じくらいの方が普通にいたのでびっくりしました。

僕はアラスカの人達のコミュニケーション能力に感心しました。なぜなら一緒にいるときにはずっと話そうとしてくれます。「退屈させちゃいけない」とか「もっと知りたい」みたいな感じでたくさん話しかけてくれる人が多いです。僕は初対面の人と話すことが少し苦手なのでそういう習慣があるのはいいことだと思いました。

また、僕のルームメイトのマークスは家で犬を飼っているので街中で犬の散歩をしている人を見つけるとその犬に近づき撫でて、飼い主に「この子の名前は？」「僕も犬を飼っているんだよ」と気軽に会話をしているのを見て、僕はまた「すごいな～」と思いました。

また、高校から町までは、橋を渡って行ける距離にあり、徒歩やタクシーで友達と出かけました。町へ買い物に行くと、レジの人とも気軽に会話をしてくれます。“Have a good day”は必ず言います。日本では滅多にないことなので驚きました。

日本とは違うと思ったこと

週に一度少し遠くのマーケットまでバスに乗って行くのですが、日本ではありえないほど運転が荒かったり、日本でも問題になっていますが、運転手が電話をしながら運転したりするをよく見かけました。

日本でバスに乗ると、早く降りたい人が前にいる人を抜かして降りていくのを見かけることがありますが、アラスカにいたときには、バスを降りるときには前の列に座っている人から順番に降りて行きます。これも日本では見ない光景だと思いました。

一昨年の姉妹校訪問でのアラスカ訪問時に、小川先生と宗像が引率として参加しました。エジカム高校のグルーレ校長のほか、日本語教員のキンバー先生や生徒さんたちが空港で出迎えてくれました。出迎えからとても素敵な体験をさせてもらいました。

陸王君の体験記に、コミュニケーション能力の高さに感心したと言うことが書かれていますが、グルーレ校長と一緒に歩くと驚くことがたくさんありました。近くにきた生徒が挨拶することはふつうですがほとんどの生徒が遠くからでもグルーレ校長の姿を見ると、「校長先生～」と声をかけてきます。

グルーレ校長も挨拶だけでなく一人ひとりの名前をよんで近況を聞いたり、談笑したりする、とても素敵な校長先生でした。400名を超える生徒さんの名前を覚えているそうです。(宗像)

発行予定

エジカム高校 までの行き方！	5
シトカの町は どんな町？	6
内モンゴルから の訪問団！	7
内モンゴルって どこにある？	8
内モンゴルの 高校生と交流！	9
カナダアルバー タ州留学募集！	10





アラスカ州の陸地面積は1,518,807 km²あり、アメリカ合衆国の州の中では最大で、第2位のテキサス州と比べてもその2倍以上あります。日本の面積は378,000km²で4倍以上、北海道の面積は、83,456km²で18倍以上あります。アリューシャン列島もアラスカ州に含まれ、その島から来ている生徒もいるのでとても広い範囲から生徒が集まっている高校です。



エジカム高校の校内には、無線LANが校内のどこでもつながります。授業中もわからないところをスマホを使って調べたりしていました。

コンピュータ化社会とかいわれる日本ですが、いろいろな分野でのコンピュータの利用については学ぶことがあると、エジカム高校に訪問したときに感じましたが陸王君も感じたのですね。(宗像)

アラスカ州全体から集まるエジカム高校の生徒たち

エジカム高校での生活に慣れた頃、多くの生徒はアラスカ州のいろんなところからマウントエジカム高校へ来ていることを聞きました。なぜアラスカはとても広いのにも関わらずたくさんの人がマウントエジカムに来ていると思いますか？それは、マウントエジカムに通う生徒の出身地の家があるところはシトカよりも田舎で高校がないからだと言った友達に聞きました。でも僕は少し羨ましいことだと思いました。遠く離れたところで暮らしていた人達が1つの場所に集まって暮らしているということは自分の知らない土地のことを知っている人にあえてまた新しい知識や興味に繋がる可能性があるからです。僕はそういう経験をしてないので羨ましかったです。

マウントエジカム高校で育まれる自立心と自由な心

次に学校生活で驚いたことは、1日の授業が80分で4時間だということです。1日の時間割が同じでそれを毎日繰り返しています。1学期中ずっと同じ教科の勉強をしています。なぜこういうシステムなのか気になった僕はこれを調べました。すると、自分の将来に必要な教科を勉強するために学期ごとに自分で教科を選択するということでした。それを知ってすごい自立していると感じました。高校に入った頃から将来の夢が決まっている人が多いです。更に高校は4年制で14歳から高校に通っている友達もいました。僕が学校で友達を見ているとみんな自立していてしっかりとした意見や自分なりの考えを持っている人が多いと思いました。

学校では授業中に持参した飲み物を飲むことができます。更に何かのイベントの時に、先生からお菓子などを貰えることなどがあって、授業中にみんなで食べる事がありました。授業中に本を読む時間があれば音楽を聴きながら本を読むことが許されていたり、寝っ転がりながら本を読む人もいました。机に足をのせる人もいました。僕は「本当に自由だなあ」と思いました。

情報化社会に対応したシステム

学校ではパソコンを使う授業が多くありました。パソコンをプレゼンテーションするのに使ったり、クラスメイト全員がアイデアをGoogleから見つけて話すチャットをしたり、生徒への連絡もパソコンでした。パソコンの利用価値を最大限に生かしているのを見て、日本でもパソコンを使う機会を増やして欲しいと思いました。

なぜなら大学や仕事では、パソコンを使う機会が多いと思うので高校生の普段の生活にパソコンを使う機会を増やしていけば、大学や仕事への覚えの速さや効率にも支障が出ることなく取り組むことが出来ると思ったからです。

アメリカならではの行事を体験

アラスカでの留学期間中、月に一度のペースでイベントがありました。ハロウィンでは友達と仮装して一緒に家を回りお菓子を貰いました。サンクスギビングには生徒全員で会館に集まって、好きな先生のテーブルに行き、一緒にターキーを食べました。学校全体で行事を行なわれるのは良い事だと思いました。

この留学から得られたもの

この留学を通して、日本とアラスカの違いを知る事が出来ました。僕はこの留学で違う言語を話すことへの怖さや恥ずかしさを克服し、日本では思いつきもしない考え方や、日本の良い面、悪い面などを知る事が出来ました。そしてまた違う国へ行きたいという想いも芽生えました。僕はこの姉妹校留学はぜひ続けていきたいと思っています。



※シアトル空港に並ぶアラスカ航空の航空機です。

※アラスカ州エジカム高校に短期留学した、石尾真瑚さん（3号掲載）と若佐陸王君の留学体験記を2回にわたり掲載しましたが、読んだ皆さんはどう感じましたか？次回は、本校からの姉妹校訪問団についてお知らせします。